

# グローバル探究ライフ

コンフォートゾーンから飛び出すことで、学校生活ではできない出会いや体験ができるのが留学。  
その経験者たちに、リアルな留学ライフと気持ちの変化について語ってもらうシリーズです！

File No.18



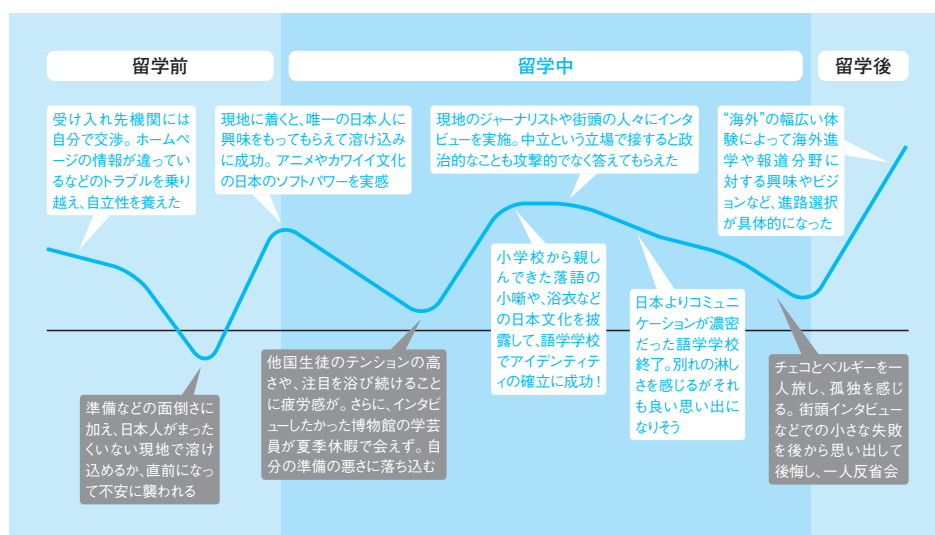
川端皓士朗さん(18歳)  
広島観智学園高校(広島・県立)

小学生の時に中国の姉妹都市との交流から、イメージと実際に触れた印象の違いに興味をもち、国際教育に力を入れる広島観智学園に進学。ジャーナリストを志望しつつトビタテ!での留学体験から、情報伝達におけるバイアスにも関心が高まり、進学に向けて勉強中の高3。

目的意識が高い留学を  
後輩たちにも経験してほしい

小6の時に、中国への体験プログラムに参加し、旅行ではなく海外で学ぶ意義を感じました。現地の方々と実際に触れる前と後ではイメージがまったく変わり、報道や情報伝達のあり方に疑問や興味をもち始めたのです。それが広島観智学園への進学のことになりましたが、中学時代はコロナ禍で渡航は断念。コロナ明けの高1の時、トビタテ!に参加した先輩が校内説明会を開いてくれて「自分も行きたい!」と。ウクライナ侵攻が始まっていたので、興味をもっていった報道についての探究を試みたくて、チェコに留学することになりました。

先生や親がトビタテ!の志願書の添削をしてくれた経験をもとに、校内のトビタテ!同期生たちと共に、翌年から先輩の書類添削や面接指導をするシステムを作りました。実際に海外に出ると、他国への偏見が消え視野が一気に広がります。特にトビタテ!は事前事後学習のおかげで目的意識が明確になり、有意義な留学ができたと感じています。



## DATA

【留学した年齢】

17歳

【留学した国】

チェコ

【留学期間】

高校2年の8月から15日間

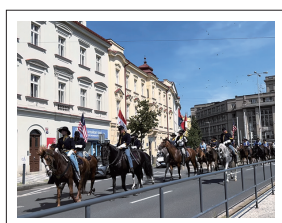
【留学内容】

チェコにおけるウクライナ報道について学ぶ

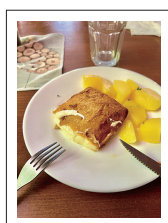
【留学しようとおもったキッカケ】

小学生の頃から海外で学ぶ価値を感じ、奨学金で留学ができる「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」に応募。

\*「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」(以下、文中では「トビタテ!」)とは文部科学省が官民協働で留学促進を展開するキャンペーンによる留学支援制度。



何のパレードか不明だけれど、ヨーロッパらしくて面白かった。

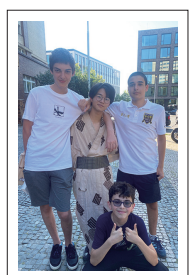


語学学校のランチで出たチーズの揚げ物。おいしかったけどちょっと重すぎ...

街並みが美しい  
プラハは両親の  
新婚旅行地航先



アニメやカワイイ文化以外の日本も知ってもらいたくて、エバンジェリスト活動として小噺を披露したり、浴衣を着てみたら喜ばれた!

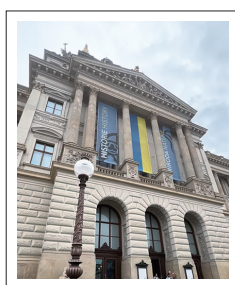


ムンクの『叫び』が  
キャンディーに!



日本人がいない環境を選んで最初は不安だったものの、自分に興味をもってくれた仲間たちと楽しい時間を過ごせました。

プラハの国立博物館に掲げられたウクライナの国旗。他にも街のあちこちで見かけた。



ベルギーのEU議会議事堂にも加盟していないウクライナの国旗があり興味深かった。

